



ゆづりは

堺市立図書館だより

第5巻 第4号 (通巻18号)

発行日 平成23年3月10日

編集・発行 堺市立中央図書館
〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1

電話 072(244)3811

Fax 072(244)3321

URL <http://www.lib-sakai.jp/>

身近に本がある環境づくり

図書館では、子ども読書活動推進のため、さまざまな事業を行っています。昨年の堺市子ども読書活動推進会議主催のフォーラムでは、子どもの読書環境について考えました。また、小・中学生のための講演会を開催しました。今後も図書館は、子どもが本と出会える環境づくりに努めます。

「堺っ子読書フォーラム」～子どもが本に出会うために～

平成22年度 堺っ子読書フォーラム

～子どもが本に出会うために～



日時：平成22年11月3日

場所：北区役所1階ホール

ボランティアグループ「美原ネットワークと・ま・と」と、図書館の実践報告の後、井原万見子さんによる基調講演が行われました。『すごい本屋！』という著書もある井原さんは、過疎の町の小さな書店で、子どもと本をつなぐために奮闘中。子どもが本に興味を持ち、読書好きになるためには環境が大切との実感から、出張読み聞かせや朗読マラソン、好奇心を刺激する講座などを行なっております。作戦をたてて取り組もう、とユーモアを交えて提言されました。

「令丈ヒロ子さん講演会」～一冊の本ができるまで～

日時：平成22年12月12日 場所：北花田プラウホール

人気シリーズ『若おかみは小学生！』の著者、令丈ヒロ子さんを講師に、読書離れの年代といわれる、小学校中学年から中学生にかけての子どもたちを対象にした講演会を行いました。原稿を書き終えてから本になるまでの説明に、参加した61人の子どもたちは真剣に聞き入り、執筆や編集という仕事への理解を深めたようです。講演後「これから、どんな本を書きたいですか」「子どもの時にしておいたほうがいいことはありますか」などの質問に、講師は丁寧に答えておられました。初の試みとして、図書館に来ない人も参加しやすい会場設定をしましたが、子どもたちの日頃の読書の様子がうかがえる、手ごたえ十分の催しとなりました。



目次

身近に本がある環境づくり	… 1
堺の民間航空	… 2
わたしの“とっておきの一冊 その14 (中学生特集)”	… 2
堺かるた いろはの「よ」	… 3
この本で解決！ ～春のものしりメモ	… 3
図書館からのお知らせ	… 3
司書のイチ押し！	… 4
ブックフェア開催のお知らせ	… 4
堺市立図書館電話番号一覧	… 4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

「年ごとに ゆづりゆづりて 譲り
葉の ゆづりしあとに また新しく」

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。

(河井醉茗氏については、「ゆづりは」通巻第1号にご紹介しています。)



シリーズ 堺の〇〇

堺の民間航空



日本における民間航空輸送の発祥の地が、堺の大浜海岸であったことはあまり知られていません。大正11(1922)年、徳島出身の井上長一氏によって堺に設立された日本航空輸送研究所が、3人乗りの水上機を就航させました。最初の航路は、堺の大浜海岸と徳島・小松島の横須海岸間、運賃は片道40円、荷物1ポンドごとに20銭とし、1時間10分で飛行、さらに堺から高松への航路も増やしました。しかし、なかなか乗客は現れなかったようです。運賃が高だけでなく、飛行機はまだまだ危険な乗り物とされていたからです。

はじめのうちは郵便物や新聞を輸送し、少しずつ乗客を増やしていきました。アイデアマンの井上氏は、堺・大阪上空の遊覧コースを作ったり、昭和11(1936)年頃には客室乗務員を搭乗させ、ビールを提供して人気を博したりしました。日中戦争の勃発により、昭和14(1939)年、大日本航空株式会社法が制定され、国内における一切の航空路は大日本航空株式会社が経営することとなり、日本航空輸送研究所も強制合併されます。戦後、昭和34(1959)年から数年間、別の民間航空の水上航空機が運航されていたこともありましたが、今は、飛行場の跡形もなく、大浜海岸一帯は臨海工業地帯となり、わずかに堺区出島西町に「航空輸送発祥記念碑」が建つのみとなっています。

参考文献 『征空野武士伝ー井上長一物語ー』岸積著 教育出版センター 『大浜飛行場関係徳島新聞記事』徳島新聞社
『航空輸送の歩み』大日本航空会社史刊行会編 日本航空協会

わたしの“とっておきの一冊” その 14 (中学生特集)

職場体験学習に来られた中学生に、おすすめの本を聞きました。

◆『まる子だった』 さくらももこ 集英社

漫画「ちびまるこちゃん」の作者が、リアルちびまるこちゃんだったころをつづったエッセイです。山本リンダ、オイルショックなど、70年代の小学生の日常が楽しめます。「犬を飼いたいときの妄想」「授業中のひまつぶし」など、小学校時代に一回はしたかも?と思える「あるある」がたくさん散りばめられていて、クスリと笑えるおすすめの本です。

◆『ハリー・ポッターと死の秘宝』 J.K.ローリング 静山社

主人公の勇気ある行動に、最後まではらはらして目が離せませんでした。ハリーの魔法界で成長していく姿がすごい。大人になっても読み返したい。

◆『とある魔術の禁書目録(インデックス)』 鎌池和馬 メディアワークス

科学と魔術が組み合わさったおもしろいストーリーです。主人公のほかに裏主人公もいてキャラクターも最高です。

◆『バッテリー』 あさのあつこ 角川書店

あさのあつこさんは文を書くのがうまくて、ほかの本も読みやすく、好きな作家さんです。なかでもお気に入りの一冊です。内容は、主人公のピッチャー原田君の球は、とても速いのです。キャッチャーも上手という野球の話です。

◆『怪人二十面相 少年探偵団』 江戸川乱歩 講談社

怪人二十面相と明智探偵の頭脳戦が心に残っています。二手、三手、先を読むところに興奮しますし、少年探偵団の動きも見逃せませんでした。

◆『ボッコちゃん』 星新一 新潮社

ショートショートの小説でとても読みやすく、全部の話がおもしろいです。笑える話も、ハラハラさせられる話もあって、何回も読み返したい本です。

◆『ゼブラ』 ハイム・ポトク 青山出版社

事故により片腕が不自由になった男の子と、片腕のなくなった、元ヘリコプターのパイロットの先生との友情に感動しました。

読み出したらとまらない あと1ページがおられない 子ども読書活動推進の標語(中学生の作品)

四ツ池は
太古の人の
住居あと



堺かるた - いろはの「よ」
「四ツ池は太古の人の住居あと」

石津川下流近くにある「四ツ池遺跡」は、近畿地方の代表的な弥生遺跡です。中心部は国の史跡に指定されています。この遺跡で発掘された石器、土器、獣骨、野菜や果物の種など、たくさん出土品から、約2000年前、人々がここに集まって暮らし、稲作、狩猟、漁獲、野菜栽培や採集などを行っていたことがうかがえます。最盛期には100棟近い竪穴住居や掘立柱建物が建っていたと考えられています。

この本で解決！
～春のものしりメモ～

梅は咲いたか、桜はまだか一花咲く季節の到来です。春の花や歌についての質問を集めました。

「桃栗3年柿8年」のあとに続くものを知りたい。

『故事俗信ことわざ大辞典』小学館によると、この続きに「柚は9年」「柚は遅くて13年」「梅は酸いとて13年」「梅は酸い酸い18年」「枇杷は9年でなりかねる」「枇杷は9年で登りかねる 梅は酸い酸い13年」「柚のばかめは18年」などがあげられています。ほかに『俚諺大辞典』（東方書院）には「梅の13年待ち遠い」「柚子は9年で花盛り、梅はすいとて13年」などがあげられていました。『図説ことわざ事典』（東京書籍）によると、「実を結ぶのにそれぞれ3年8年とかかる」という意味で「ものにはそれ相應の年数がかかったり必要となるということ」とありました。

尋常小学校で習った「2月3月花ざかり」で始まる、梅の花が梅干しになるまでの歌を知りたい。

歌詞は『梅2(ものと人間の文化史)』（法政大学出版局）など、梅に関連する本に掲載されています。メロディは『ひらけ！ポンキッキヒット曲集』（ドレミ楽譜出版社）に、「作曲者不詳、関田昇介・編曲」となっているものが掲載されています。歌詞・楽曲ともにアレンジがあるところをみると、伝承のメロディに近いと思われます。

京都の勝持寺にある西行桜の写真の本を見たい。

『京都・桜 カメラを持って京都へ行こう』（光村推古書院）、『京都桜百景』（光村推古書院）、『さくら図鑑 京都』（淡交社）に、それぞれ1ページずつ写真が載っています。他に、写真はありませんが、『京の名花・名木』（淡交社）に、勝持寺の西行桜のいわれや、都名所図の絵が掲載されています。



図書館からのお知らせ

4月1日（金）から、より多くの方に図書館資料を利用いただくために、貸出・予約点数をそれぞれ15点までとします。1館で15点借りることも、複数の市立図書館で合計15点借りることもできます。なお、電子書籍は15点に含みません。別途3点まで貸出・予約ができます。詳しくは図書館ホームページでご覧になれます。http://www.lib-sakai.jp/



司書のイチ押し！

『ルリユールおじさん』 いせひでこ／作 理論社

『大きな木のような人』 いせひでこ／作 理論社

子どもの頃、手を見ているのが好きだった。

お正月のしめ飾りを作る父の手、針仕事をする母の手、何かを整えている姉の手、草取りをする祖母の手。家族の無骨で不器用な手であったが、くるくる動いた後に、なにがしかの仕事が進んでいた。

ルリユールおじさんの手は、そんな私にとって、一日見ても飽きない手であろう。ましてや、相手は本である。製本の、それも修理の行程が丁寧に簡潔に描かれている。

ソフィーの大事な大事な植物図鑑を、ソフィーの名前入りの本に、文字通りソフィーだけの本に造り直してくれたルリユールおじさんは、「本には大事な知識や物語や人生や歴史がいっぱいつまっている。それらをわすれないように、未来にむかって伝えていくのがルリユールの仕事なんだ。」と言う。まさに図書館の役割そのものである。図書館は、それに加えて、自ら考え、行動を起こせるべく、資料によって手助けをする所である。

本にはいろんな可能性が詰まっている。成長したソフィーが、植物研究者になったのも、この図鑑があったからこそ、とうなずける。（『ルリユールおじさん』）

そして、パリの植物園で働くようになったソフィーは、植物園に通い詰め、花や木を描き続ける日本の少女に、「わたしの植物図鑑みる？」と自慢げに、あの図鑑を書棚から取り出す。人と人とのつながりを、さりげなく伝えてくる。（『大きな木のような人』）

図書館でたくさんの本を見るにつけ、もっと早くこんな本に出会っていたら…、と思うことがよくある。

ここに描かれているように、大事な本を、人のつながりとともに大切に引き継ぎ、可能性に挑戦し、考え、実現する—そんなことを、手助けできる図書館であつたらいいな、と思う。

（M）

□◆ブックフェア開催のお知らせ◆□

中央図書館は、毎年、国際ソロプチミスト堺より外国語絵本を寄贈していただいておりますが、平成22年度は中国語の絵本を寄贈していただきました。そこで、中国語版の絵本と日本語版の絵本を一緒に展示するブックフェア「くらべてみよう中国語のえほん」を開催します。

期間は4月1日から30日まで、場所は図書館1階ロビーです。中国語を母語される方、語学勉強中の方、子どもと一緒に国際理解をしたい方、どなたでも楽しく見ていただけます。

展示期間終了後、貸出可能となります。



昨年のブックフェア「外国語の絵本」

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415
中央図書館	244-3811
くすのき号	244-3811
堺市駅前分館	222-0140
中図書館	270-8140
東百舌鳥分館	234-9600
東図書館	235-1345
初芝分館	286-0071
西図書館	271-2032
南図書館	294-0123
梅分館	296-0025
美木多分館	296-2111
北図書館	258-6850
美原図書館	369-1166
人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
青少年センター図書室	228-6331